



放送大学青森学習センターで開かれたゼミ。手前が岩谷さん＝9日

いつでもどこでも誰もが

「いつでもどこでも誰もが学べる大学」を理念に掲げる放送大学の青森学習センター(弘前市文京町)が今年、開設から30周年を迎えた。テレビ放送を中心に、ビデオテープ、DVD、オンラインと伝えるスタイルを変えながら、多様な背景を持つ人の学びを支え、これまでに千人以上の卒業生を送り出してきた。

(伊藤ほなみ)

放送大学青森センター(弘前)

多様な学び支え30年

「『マップハグググ』は知ってますか」「へー知らなかった」。9日、弘前大学敷地内にある同センターの講義室で、40〜70代の4人が「世界のアニメーションと日本のアニメ」をテーマにしたセミナーに参加していた。

1993年春の開設当初から在籍している岩谷百合子さん(76)は弘前市でもその一人。「アニメは詳しくないんだけど」と話しながらも、30歳近くも離れた同級生との会話を楽しみ、みんなが集まって作品を鑑賞する「アニメ会」の計画にも加わった。

岩谷さんは長年、看護師として働き、仕事と両立しながら「現役大学生」を続けてきた。「人生の先輩がいっぱいいた。ここに来て学ぶことは、自分にとっては生きること。先輩たちから『放送大を』やめたら死ぬから、やめてはいけないうよ」と申し送りがあったんですよ」と笑う。

放送大は私立大学に位置づけられる通信制大学。学士、修士、博士の学位取得を目指すことができるほか、自分の興味のある科目のみ履修することも可能。今学期(5〜9月)は、同センターと八戸市のサテラ

イトスペース合わせて、690人が在籍している。26日に弘大創立50周年記念会館、27日は八戸市のユ

ートリーで30周年記念公開講演会を開く。弘前高校、東京大学出身の青山昌文放送大特任教授が「芸術・日本・ヨーロッパ」をテーマに講演する。参加申し込み、問い合わせは同センター(電話0172-230500)へ。